

最近のスリランカ情勢と日ス関係

スリランカ概要 1

スリランカ政治・経済情勢 2

最近の日スリランカ関係 3

2023年2月
外務省

スリランカ民主社会主義共和国

●2022年7月新大統領の下の新政権誕生

経済状況が悪化する中、2022年7月、大規模抗議活動の結果ゴタバヤ・ラージャパクサ前大統領が辞任しウィクラマシンハ新大統領が選出され、新内閣が発足。

●地政学的な重要性

アジアと中東・アフリカの間に位置するシーレーン上の戦略的要衝。

* 人口： 2, 216 万人(2021年:スリランカ中央銀行)

* 面積： 65, 607km²

・北海道の約0.8倍

* 多民族・多宗教国家

・シンハラ人:75% タミル人:15% ムーア人:9%

・仏教:70% ヒンドゥー教:12% キリスト教:8%

・イスラム教:10%

* 成人識字率:92. 9%(2019年)

* GDP成長率:3. 3%(2021年)

・2020年(▲3. 5%)、2019年(▲0. 2%)、2018年(2. 3%)

・2022年予測:▲8. 7%(IMF)、▲9. 2%(世銀)、▲8. 8%(ADB)

* 一人当たりのGDP:3, 815米ドル(2021年)

* 名目GDP845億米ドル(2021年)

* 政治体制・・・共和制

・元首:ラニル・ウィクラマシンハ大統領

・国会:一院制(225議席)

* 産業・・・縫製業、農業(紅茶、ゴム、ココナッツ、米作)、観光業

* 外交・・・非同盟中立

* 在留邦人・・・678名(2022年10月)

* 観光客数

・約19万人(2021年。前年比62%減)

* 進出日系企業数・・・107社(2021年10月)(商工会登録会員74社(2022年9月))

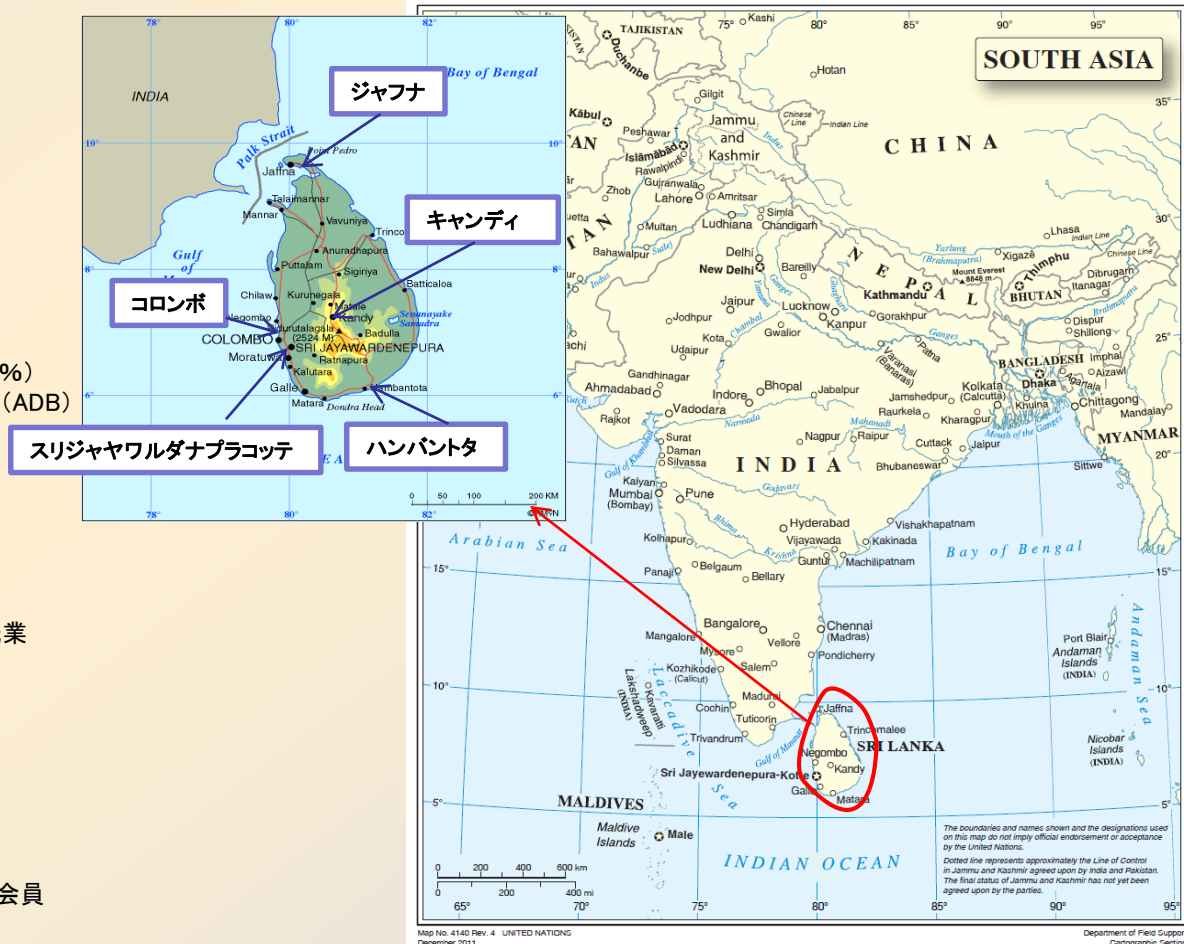
●伝統的な親日国

サンフランシスコ講和会議で賠償請求権を放棄。

長年の主要援助国(2003年「スリランカ復興開発に関する東京会議」開催)

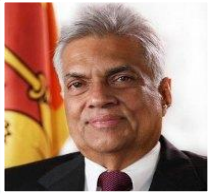
●深刻な経済危機への対応が課題

債務問題、インフレ、食料・燃料等の必需品不足、財政改革、産業基盤強化など課題が山積。



スリランカ政治・経済情勢

スリランカ内政



ラニル・ウィクラマシンハ大統領



ディネーシュ・グナワルダナ首相

最近の政治動向

- ・2009年 5月 「タミル・イーラム解放の虎」(LTTE)との紛争終結
- ・2015年 1月 大統領選挙実施・シリセーナ野党統一候補(統一国民党(UNP))が勝利
- ・2015年 8月 総選挙実施・UNPがスリランカ自由党(SLFP)と大連立形成
- ・2019年 11月 大統領選挙実施・ラージャパクサ野党候補(スリランカ人民戦線(SLPP))が勝利
- ・2020年 8月 総選挙実施・与党SLPPが145議席を獲得して勝利
- ・2022年 5月 マヒンダ首相辞職。ウィクラマシンハ首相就任
- ・2022年 7月 ウィクラマシンハ首相が国会で民主的に大統領に選出され就任し、組閣。

- 2019年の爆破テロ事件及び同年のゴタバヤ・ラージャパクサ大統領就任後の大規模減税を含む大きな政策変更を受け、スリランカ経済は徐々に悪化。新型コロナ感染拡大後は主要産業の観光業が衰退し、海外送金額も低下した結果、外貨準備高が激減。(2022年11月末現在で約17億ドル(ほぼ1か月分の輸入額相当)。)
- 外貨不足により燃料、医薬品・食品等の必需品の輸入供給が困難となり、2022年3月末以降大統領退陣を求めるデモが各地で続く中、4月4日、大統領と首相を除く全閣僚が辞職。その後、5月9日にマヒンダ・ラージャパクサ首相が辞職し、12日、ウィクラマシンハ新首相(元首相)が任命された。7月9日、大統領退陣を求める大規模抗議活動が発生し、一部参加者が大統領官邸、大統領府、首相官邸を占拠。これを受け、ゴタバヤ・ラージャパクサ大統領は国外に脱出し、14日に辞任。20日、ウィクラマシンハ首相が新大統領に選出され21日就任。22日、ディネーシュ・グナワルダナ首相(元外相)を含む主要閣僚が任命された。

スリランカ外交

- 基本的に非同盟中立でバランス外交を重視。印との関係を重視する一方で、近年は中国の影響力が急速に増大。(中国合弁会社へのハンバントタ港の運営権の99年間譲渡等)

スリランカ経済

- 2009年の紛争終結直後は高い経済成長を実現。近年は政治的混乱、連続爆破テロ、新型コロナウイルス感染症等の影響により観光客数や海外労働者送金額が大幅に減少したことで停滞。2022年には、外貨準備高の減少や輸入規制、ルピー安等を背景とした急激なインフレによる実質所得の減少や食料・燃料等の物資不足、長時間の停電による生産活動停滞といった経済危機により、南アジアで唯一のマイナス成長となる見通し。
- 慢性的な貿易赤字と財政赤字を背景として、債務残高は増大。同年4月12日、スリランカ財務省はIMFによる経済調整プログラムに沿った債務再編が行われるまでの間、対外債務の支払いを一時的に停止する措置を発表。9月1日、IMFによる約29億米ドルの資金支援(拡大信用供与措置(EFF))につきスタッフレベルで合意。理事会承認を得るべく、債務再編、財政改革等に取り組んでいる。

日スリランカ関係

日スリランカ関係の流れ



サンフランシスコ講和会議(1951年)で、「憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によって止む」という仏陀の言葉を引用し、賠償請求権を放棄し、日本を国際社会の一員として受け入れるよう訴えた故ジャヤワルダナ大統領(当時財務相)

- 1952年サンフランシスコ平和条約発効を機に国交樹立。2022年国交樹立70周年。
- 最近の要人往来:2013年5月麻生副総理兼財務大臣、同年7月新藤総務大臣、2014年9月安倍総理、2015年10月ウィクラマシンハ首相、2016年5月シリセーナ大統領、2017年4月ウィクラマシンハ首相、同年12月石井国交大臣、2018年1月河野外務大臣、同年3月シリセーナ大統領、同年8月小野寺防衛大臣、2019年10月シリセーナ大統領、同年12月茂木外務大臣、2022年9月ウィクラマシンハ大統領、2023年2月武井外務副大臣

経済・経済協力

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2018年	300.40	14.04	18.18
2019年	0	34.33	10.34
2020年	0	23.85	9.93
累計	11,267.07	2,230.43	866.65

(交換公文ベース、JICA経費実績ベース)(単位:億円)

	主な相手国	日本の対「ス」輸出入額
輸出	米、英、印、独、伊	約355億円 自動車、一般機械、電気機器等
輸入	中、印、UAE、マレーシア、シンガポール	約313億円 衣類、紅茶、魚介類等

(2021年:日本財務省貿易統計)

- 地域の連結性強化のための質の高いインフラ整備を中心とした支援を実施
 - 1986年から2008年まで、日本は継続して二国間では最大の援助供与国。
 - 2011年11月我が国等の支援で建設されたスリランカ初の高速道路が開通。
 - 2020年7月、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、保健・医療関連機材供与のための無償資金協力を実施。
 - 2021年3月、UNICEF経由でワクチンの保管・輸送に使用するコールド・チェーン機材を供与。7月～8月、COVAXファシリティ経由で約146万回分のワクチンを供与。
 - 経済危機対策として、医薬品・食糧、医薬品等を供与する緊急無償資金協力を実施。
- 日本・スリランカ間の貿易額は約668億円(2021年)
 - 日本は重要貿易相手国。対日輸入は第7位、輸出が第11位(2021年)。スリランカ進出日系企業数は2021年10月時点で107社。(商工会会員74社:2022年9月時点。)

海洋分野での協力

- 2011年4月の16年ぶりの海上自衛隊艦船(ソマリア沖海賊対処)の寄港以来、2022年10月末までに計71回寄港。
- スリランカ沿岸警備庁への継続的な専門家の派遣、研修の実施。また、2018年8月に巡視艇2隻を無償供与。

国際場裡

- 多くの国際機関選挙・決議等で我が国を支持(我が国の安保理常任理事国入りも支持)。

テロ・治安対策・平和構築への関与

- 2019年9月、同年4月の連続爆破テロを受け、テロ・治安対策機材供与のための無償資金協力を実施。
- 明石康元国連事務次長をスリランカの平和構築並びに復旧及び復興に関する日本政府代表に任命(2002年～2020年)し、スリランカ和平に積極的に関与してきた。また、2009年5月の紛争終結後も野口元郎国際司法協力担当大使を現地派遣する等、スリランカの平和構築を後押ししてきた。